

八丈島

水産だより

2月号
2021年



「常春の島」と呼ばれる八丈島ですが、連日寒い日々が続いております。1月21日から2月3日頃までは、二十四節気で「大寒」と呼ばれ、1年で最も寒い時期と言われております。そして、大寒が終わると、次は「立春」となり、いよいよ季節は冬から春へと移り変わっていきます。長く続く自粛生活で暗い雰囲気となりがちですが、春の訪れが、明るい話題を運んでくれることに期待しましょう！

■ 最近の漁模様

冬場は例年、海が荒れることが多くなりますが、今年も思うように出漁できない日が多くなっています。また、出漁ができた日も、島の周辺で操業を行うことが多いようです。その中で、1月に主に漁獲されたのは、キンメダイです。キンメダイは、八丈島で最も漁獲量が多く、高値で取引されることから、八丈島の漁業において、非常に重要な資源です。今後の好漁を期待しましょう。



→操業風景
(底魚一本釣り漁業)



■ 調べてみよう！～魚の名前の由来について～

メダイ→



皆様の名前には、両親の思いが込められた由来があると思いますが、実は魚の名前にも由来があります。例えば、写真の「メダイ」や「まぐろ」は、その見た目が由来となっています。メダイは顔について大きな目から「目鯛」、まぐろは背中が黒く、船から見た姿が真っ黒に見えたことから、「まっくろ」→「まぐろ」になったと言われております。このように魚の名前の由来を知ることによって、遠い昔の魚の名付け親たちの思いが読み取れるかもしれません。

